



K S E S 造の損傷評価で講演会 能登地方の被害状況を報告

関西建築構造設計事務所協会（略称・K S E、会長Ⅱ正木忠・馬瀬構造設計事務所社長）は4日、大阪市西区の建設交流会館で第50回公開講演会を開催した。日本建築学会文教施設小委員会能登半島地震学校建築被災度判定WG所属の吉敷祥一・東京科学大学総合研究科教授が「鉄骨造建物の損傷評価法と2024能登半島地震における被害状況」と題して講演した。

分判定に基づいて実施した体育館や校舎などの被害調査の結果を報告。耐震ブレースなどの被害のほか、基礎の損傷に伴う建物傾斜などの状況や、間仕切り壁など非構造部材の被害についても解説した。

講演では昨年の元日に発生した令和6年能登半島地震の被災地域で、被災度区を、日々の設計業務に役立ててもらえれば」とした。